フィールド（現場）からの風 ㉔

宮田守男

今年の収穫作業の諸問題が今後の農家経営にどの様な影響をしてしまうのか注視してみませんか

収穫の秋を迎えたが、長雨や日照不足などの不順な天候で、稲の刈り取り作業が大幅に遅れている。田んぼは乾かず収穫コンバインは泥だらけになり思うような時間での収穫作業ができず、適期の刈り取りに苦慮している。近年コンバインの作業能力は向上して収穫作業が容易になってきているが、地域の乾燥能力は限られており、品質低下を防止するために、特に高水分籾は無加温の通風乾燥から開始して、徐々に加温して籾温40度以下で乾燥させなくてはならず、乾燥現場は、胴割米による品質・食味の低下に気をもんでいる。

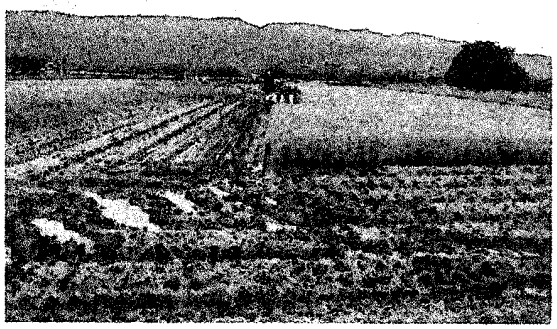
長雨による影響は、県内のブドウの皮が裂ける「裂果」が相次いでいるなどの情報が伝えられ、毎年、お彼岸の折、楽しみに購入しているリンゴの「秋晴れ」も、生育の遅れで市場に出荷されないなど、他の農産物への影響が心配されている。

今年の異常天候のためか、農作業現場でも異変を体験した。収穫前にするほ場のあぜの草刈り、例年だと草丈も短くて作業は安易なのだが、今年の草丈は異常に成長して大変な作業に。また秋野菜を播種した後は、雑草があまり活発な活動を見せないのだが、この時期には、珍しい雑草の種類も芽を出し、草取り作業も重労働に。温暖化の影響かと疑ってしまうほどだ。

野菜出荷農家として、改めて学ぼうと書店の書棚を探すと、森昭彦さんの著書「身近にある毒植物たち～知らなかったではすまされない雑草・野菜・草花の恐るべき仕組み～」が気になり購読する。自然のものは身体に優しいというお題目のもと、旬と呼べる時期に、自分で採取し、料理して、食べるという流行に警鐘をならす内容だ。

野菜や薬草たちの複雑な化学防壁。どれほど飼いならそうとも、彼らが大切に守っているものを完全に奪い去る事はできない。の項目は興味深いものだった。日本で最も中毒率が高い野菜がジャガイモだった事。ソラニンというステロイド系アルカロイド類は、時間の経過と共に増産され、陽の光はもちろん、電灯の明かりですら影響してしまう事。ハピアの農産物売り場は、日の当たらない一番下の棚に置かれている事に、改めて感心してしまう。ヒョウタンとキュウリなどのウリ科の野菜は一緒に生育してはいけない事、料理に添えてはいけない植物など学ぶ大切さを知った日でもあった。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



大町市、9月下旬、作業条件の悪い中、おいしいお米を生産したいと適期刈り取り作業が進む